

科目名	音楽基礎B2							年度	2026
英語科目名	Basic Theory of Music B2							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 1年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	恒枝賢治		教員の実務経験	無	実務経験の職種	ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター			

**【科目の目的】**

ドラムセット、ギターアンプ、ベースアンプに関する知識を獲得し、現代および次世代の音楽に使用されるテクノロジーを理解する。また、MIDI4級試験の範囲内に含まれる知識を身につけ、現代ミュージシャンとしての基礎スキルである「MIDI」と「ミキシング」を学ぶ。

**【科目の概要】**

現代ミュージシャンとしての基礎スキル「MIDI」「ミキシング」を学びます。

**【到達目標】**

- A. ドラムセット、ギターアンプ、ベースアンプに関する知見を取得する。
- B. 現代、次世代に通用する音楽に使用されるテクノロジーを理解する。
- C. MIDI4級試験の試験範囲内に網羅される知見を取得する。

**【授業の注意点】**

専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	ドラムセット、ギターアンプ、ベースアンプに関する知見を取得する		ギターアンプに関する知見を取得する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	現代、次世代に通用する音楽に使用されるテクノロジーを理解する		音楽に使用されるテクノロジーを理解する		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	MIDI4級試験の試験範囲内に網羅される知見を取得する		MIDI4級試験の試験範囲程度の知見を取得する		到達目標Cについてさらなる努力が必要
到達目標 D					
到達目標 E					

**【教科書】**

(株)ヤマハミュージックメディア「ミュージッククリエイターハンドブック」

**【参考資料】**

特になし

**【成績の評価方法・評価基準】**

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		音楽基礎B2			年度	2026
英語表記		Basic Theory of Music B2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	基礎復習	基本復新	1 前期復習	音楽基礎の確認ができる	3	
			2 音楽基礎B1	既習内容を振り返る		
			3 内容整理	基礎的な理解を深める		
2	MIDI概要 1	MIDI初歩	1 MIDI基礎(前)	MIDI基礎を把握する	3	
			2 MIDIの理解	MIDIの歴史を知る		
			3 MIDI活用	MIDIの種類を区別する		
3	MIDI概要 2	MIDI深化	1 MIDI基礎(後)	MIDIの仕組みを理解	3	
			2 MIDIの深掘り	MIDIの規格を知る		
			3 MIDI機能	MIDI通信の基礎を学ぶ		
4	チャンネル 1	メッセージ理解	1 チャンネル前半	チャンネルボイスを知る	3	
			2 ボイス理解	音の発信情報を理解		
			3 ボイス活用	メッセージの送受信を学ぶ		
5	チャンネル 2	メッセージ理解	1 チャンネル後半	チャンネルの役割を深掘り	3	
			2 ボイス実践	ボイスの特徴を理解		
			3 ボイス発展	複雑な操作も習得する		
6	GM音源 1	音源解説	1 GM音源(前)	GM音源の特性を学ぶ	3	
			2 MIDIファイル	スタンダードMIDI活用		
			3 MIDI形式	音色とデータの理解を深める		
7	GM音源 2	音源活用	1 GM音源(後)	MIDIファイルの仕組み理解	3	
			2 MIDI演習	ファイルの取り扱いを学ぶ		
			3 ファイル応用	音楽データの編集技法を知る		
8	メッセージ 1	MIDIメッセージ	1 メッセージ前	MIDIメッセージの構造を学ぶ	3	
			2 仕組み理解	データの送受信を把握する		
			3 仕組み活用	メッセージの分類を知る		
9	メッセージ 2	MIDIメッセージ	1 メッセージ後	高度なメッセージを扱う	3	
			2 MIDI技法	モードの変更を理解する		
			3 応用技法	システムメッセージを活用		
10	モード	メッセージ理解	1 モード(前)	応用的な操作を習得する	3	
			2 システム理解	モードの特性を深掘り		
			3 メッセージ性	システムの詳細を理解		
11	システム	メッセージ理解	1 モード(後)	実際の操作を習得する	3	
			2 システム応用	同期関連の基礎を学ぶ		
			3 深い知識	MIDI機器同士の連携理解		
12	同期関連 1	同期基本	1 同期(前)	正確なタイミングを保つ技法	3	
			2 関連性	同期の高度な設定を知る		
			3 メッセージ理	メッセージの詳細を理解		
13	同期関連 2	同期実践	1 同期(後)	プロの技法を習得する	3	
			2 同期活用	RP規格の基礎を学ぶ		
			3 メッセージ応	新しい技術の取り入れ理解		
14	RP理解	RP概論	1 RP規格	実践的な操作を習得する	3	
			2 RP活用	全体の復習を行う		
			3 RP技法	知識の定着を確認する		
15	総括	総合理解	1 まとめ	次のステップへの準備	3	
			2 内容確認	既習範囲の問題解決能力		
			3 振り返り	複合的な課題に挑戦する		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等